

そのお参り
大丈夫?



NGの花は?
住職へのお礼は?

知ら恥ッ!

お彼岸マナー

太陽が真西に沈む春分の日。西方にあるという極楽浄土、つまり向こう側(彼岸)とこちら側(此岸)がいちばん近づくのだという。お葬式や法事ほどかしこまっていけないからこそ難しい、知らない恥をかきマナーコードをチェック!

今年のお彼岸は3連休を含むため、日ごろ、なかなか行く機会のないお墓参りに行ってみようと思っている人も多

いのではないだろうか。
A-I-I A b o u t 「冠婚葬祭」ガイドの中山みゆきさんはお彼岸のいわれについて次のように説明する。
「古来人々はあの世に思いをはせ、真西に沈む太陽に向かって礼拝をしたといえます。これが彼岸の始まりとされ、後に墓参りをして先祖供養をする習慣になったのです」
せっかとお参りをするならば、ご先祖様に安心してもらえるマナーを身につけたいもの。前出の中山さんと墓参りに詳しい石材店「サカイ」の代表取締役・坂井健さんに聞いてきました。

お墓参りはいつまでに行く?

23日までなら
いつでもOK

「お彼岸は春分の日を中心に前後の3日間のことを指します。今年なら3月17日が彼岸入り、23日が彼岸明けとなり、この7日間にお墓参りをすればいいのです」(中山さん)

通常はお墓参りだけでもよいのだが、身内が亡くなって初めて迎える「初彼岸」は家族や親しい人を招いて、丁寧に行うことが望ましい。
「できれば僧侶を自宅などに招いたり、寺で読経してもらうのもいいですね」(中山さん)

自宅から持っていくものは?

忘れがちなのは
火をつけるライター

お線香・花「お花は故人が好んだものなら何でも構い

ませんが、一般的には長持ちする菊などが好まれます」(中山さん)
ただし、バラはとげがあるため、仏様が嫌うといわれて

お墓参りの正しい順序は？

合掌は全ての作業が済んでから

意外と迷うのがお墓参りの順序。正しいやり方と順番を坂井さんに教えてもらった。

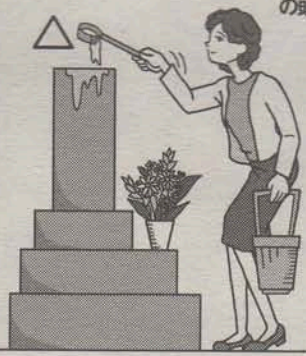
① 住職にあいさつ

「ご住職へあいさつが済んだあとは、日ごろの感謝をこめてご本尊（寺にまつられていたる仏像など）に手を合わせてください」

共同墓地の場合は住職へのあいさつは不要。

② お墓の掃除（別項）

③ お花をたむける



水をお墓の頭からかけるのは、ご先祖様の頭へ水をかけることに。

④ お線香を供える

お線香は立てるタイプの場合は束のまま火をつける。横に置くタイプの場合は束をほどいてから適量（10本ほど）ずつ取って火をつける。

「束のまま火をつけて、横に置くと火が消えてしまうことがあります」

また、参拝客が複数いる場合は、1束を人数分に分けてから火をつけて供えるようにしましょう

⑤ 水手向

ひしゃくの水をくんだら、まず水鉢に入れる。

「墓石手前に設置されたり、台石に掘り込んである水鉢はお墓の心臓部分。ここは仏様の渴きをいやすところなので、最初に入れます」

墓石に水をかけるとき、気をつけたいのが、てっぺんからバシヤッとかけてしまうこと。



「墓石のてっぺんは仏様の頭の部分になります。てっぺんから水をかけると仏様の頭から水をかけてしまうことになりま

の部分は水ぶきをして下の石段部分はかけるようにしましょう

⑥ 合掌

「仏様を見下ろさないような位置で合掌してください」

低いお墓の場合はできるだけ近づいてしゃがんでから合掌したい。

掃除の仕方は？

細かい部分にはハブラシが活躍

雨や雪、花粉などで思った以上にお墓は汚れている。日ごろの感謝をこめて、丁寧に掃除することが大切。

まずほうきで周りをはいたあとに濡れたぞうきんかタオルで墓石をふく。

「洗剤は変色の原因にもなり

お線香、お供えはそのままにして帰っていい？

必ず持ち帰り、線香は燃やしきる

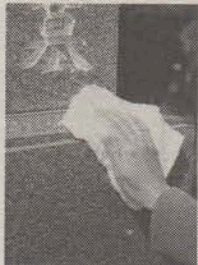
「お線香は燃やしきるまでいましょう。

お花は置いて帰ってもよいのですが、食べ物のお供えも

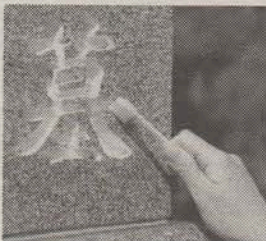
のはガラスや猫が来て、散らかして周囲を汚す原因になり、お寺の迷惑になります。そのままにせず必ず持って帰るようにしましょう」（中山さん）

きんでぬぐってください」（坂井さん）

墓碑銘など彫刻の部分についていたほこりや苔はハブラシで取り除くといい。



ゴシゴシと磨きたくなくなるが、墓石の長持ちにはぞうきんがいちばん。



細かい部分の掃除にはハブラシが大活躍。

お墓が遠くて行けない場合は？

故人を偲び、仏壇か写真に手を合わせる

「仏壇にお供えとお焼香をして合掌すれば、それが供養になります。

このときもお墓掃除と同様に、仏壇を丁寧に掃除して、仏具の手入れも併せてしましょう。

もし家にお仏壇がない場合は故人の写真に手を合わせ、

お供えものをするのでもいいですね。

また西に極楽浄土がある考えからお彼岸中は西の方向を向いて合掌するように心がけてみては」（中山さん）

*

お彼岸マナーの基本は、ご先祖様に感謝の意を表すこと。

マナーをしつかり守り、心を込めて、お参りをしましょう。

イラスト／あへゆきこ

取材協力／サカイ、妙泉寺